

大寶二年戸籍帳に就いて : 社會學的考察

近澤, 敬一

<https://doi.org/10.15017/2544987>

出版情報 : 哲學年報. 4, pp.125-162, 1944-03-05. 九州帝国大学法文学部
バージョン :
権利関係 :



大寶二年戶籍帳に就いて

——社會學的考察——

近

澤

敬

一

目次

第一節 序 説

第二節 名の數と人數との關係

第三節 名の數と共通名の數との關係

第四節 時代と名との關係

第五節 名の分類

第六節 結 論

第一節 序 説

目的 此の考察の目的は上代我國庶民の社會的・文化的状態を實證的に知ることにある。古くは石器時代の土器・石器を始めとして、九州北部諸所に見出された裝飾棺等、日本人の文化的所産を我々は上代又はそれ以前に多數見出すのであるが、言語的遺物としては日本人の作つたものでは紀伊隅田八幡宮藏の古鏡の銘が最古のものとされてゐる。(大日本金石史二四三頁) 此れに次いで多數の金石文がある。然し金石文といふものはその性質上、石に彫りつけたものでも、鐘銘や鏡銘や造像記でも、庶民のものとは考へられない。少くとも下層民の思想を表はすよりも、其れ等のものを作る力のある上層階級の思想に基いて作られたものと考へられる。即ちその銘せられた言語は恐らくそれを作らせた上流階級の思想をより多く表はすものであつて、それを作つた部民や、それを作ることすらせざるも出来なかつた部民や奴婢の思想を表はす事は少いものであらう。そこで私は大寶の戸籍帳に表はれた人名を以て庶民の言語的文化を表はし且つ年代附ける事の出来る我國最古の現存遺物であると考へる。奴婢の名をその主人がつけたかその親がつけたかは判らないが、其の他の下層民の名は恐らくその母親が附けたものと考へられる。其れは古事記垂仁天皇の條に「亦天皇命詔其后。言凡子名。必母名。何稱是子之御名」とあり、又日本書紀神代卷下にも同様に母親が命名したことを示す例があるから、古くは母親が命名したものを思はれる。さうとすれば、戸籍帳に表はれた名はその氏族、その階級、その地方の社會意識の表現と見られる事となる。

資料 此處で資料とした戸籍帳といふのは「大日本古文書」一に出て居るもので、正倉院にその原本は收められて

居る、所謂正倉院文書の一である。この戸籍帳の作られた時代は大寶二年であつて、紀元一三六二年、文武天皇の御代であり、やがて奈良朝始まらうとする時代である。即ち大化の改新により唐から取り入れられた新しい制度が地方にも或る程度行きわたつた頃かと思はれる。此の戸籍帳の存在そのものがその表はれの一つであらう。この戸籍帳の人名は推古朝に生れた人のものが最も古く、大化の改新を経て、文武の御代に至るものである。當時の社會構成を太田氏は日本上代に於ける社會組織の研究に於て下の如く云つてゐる。大化の改新より、上古の社會の基礎をなした氏族制度、伴部制度は破られたが、氏姓といふものはまた社會に意味を持つて居て、中古初期の社會階級の基礎をなしたものは氏姓であつた。中古の社會階級を概括すれば、第一は昔の大臣大連郷大夫臣連の後裔、天武の忌寸以上の姓を賜つた者で貴族である。第二は伴造國造稻置等の後裔、天武賜姓のとき新姓を賜はらない者で、これは明治の士族に類する。第三は姓を持たぬ者及び古代の品部部曲の民の後裔であり部名人名を帯びる氏で、平民である。第四は氏名も部名もない所の家人公私の奴婢及び非解放の伴部即ち雜戸陵戸の類で、賤民である。

戸籍帳に表はれた場所を、大日本地名辭書に依り現代の地名に比定すれば、次の様になる。

御野國味蜂間郡春部里 岐阜縣揖斐郡養基村か

御野國本簀郡栗栖太里 同縣本巢郡牛牧村か

御野國肩縣郡肩々里 同縣岐阜市長良か

御野國各牟郡中里 同縣稻葉郡那加村

御野國山方郡三井田里 同縣山縣郡岩野田村

御野國加毛郡半布里

同縣加茂郡富田村

筑前國嶋川邊里

福岡縣糸嶋郡元岡村か

豊前國上三毛郡塔里

同縣築上郡唐原村か

同國同郡加目久也里

同郡横武合河等の村か

同國仲津郡丁里

同縣京都郡城井村か

以上のうち春部里は養基村に粕ヶ原があり、中里、三井田里、半布里は何れも同音の村名又は大字名が比定された地にあるから地名の上から問題はないとしても、肩々里は地名辭書が比定した岐阜市長良の直ぐ近くに方縣村があるのに長良に比定したのは何か理由があるものと思はれる。川邊里は確實に比定出来る地名を見出さない。塔里に比定された唐原村の他に、同じ郡内千束村にも塔田といふ大字がある。もし地名からだけ比定するものとするれば、その方が穩當ではなからうか。加目久也里は辭書には加自久也里とよばれてゐる。目は自の省劃と考へたのであらうか。地名辭書は丁里を木里の省劃として城井村に比定してゐるが、辭書の編者自ら疑つて居るやうに不穩當であらう。寧ろ丁を「ヨボロ」と訓んで京都郡の小波瀬村に比定しては如何であらうか。小波瀬村には與原ヨボロといふ地名がある。但しこれは地名からだけの考へであつて小波瀬村は地名辭書によると古くは仲津郡には屬して居なかつた様であるから強く主張することも出来ない。以上の諸地方を地圖の上で見ると、御野國の六里は總て今の岐阜縣に屬し、大體に於て平野又は平野と山地の境にある村で、現在の岐阜市を中心にした半圓形の地方に分布して居る。九州の諸地名は皆今の福岡縣に屬し、海岸から二三里以内にあり、大體平野か平野と山との境にある村のそれである。豊前の三里は周防

灘に面し、筑前のは怡土半島にある。

次に戸籍帳に表はれた氏族名の大體を述べる。

御野國春部里には半數に近い國造族と呼ばれる所謂士族の戸がある。他に春部六人部等部名をもつものがある。栗栖田里は二戸の栗栖田君族を除き他は刑部、道守部、物部等部名を帯びる民である。肩々里は國造の他は不明。中里は部民のみ他は不明。三井田里には五百木部君の他は五百木部その他の部民。半布里では所謂士族では縣主族が多くその他縣主、縣造などいふのもある。いはゆる平民では秦人が最も多い。縣主族と秦人で大部分を占めて居る。筑前川邊里では占部、物部等部名を帯びるもの多數を占め氏姓をもつものには肥君がある。豊前塔里では秦部等部名を持つ者の外、塔勝調勝等勝といふ姓を帯びる者が多い。他の二つの豊前の里に就いても同様である。

第二節 名の數と人數との關係

名の數と人數との關係を考へて見るに、一般的に言つて人數が増加すれば名は増加するが、然し比例して増加するのではない。人數が多くなるに従つて同名の人の割合が多くなつて來る。人數を變數として名の數を函數とするとき

$$y = f(x) \quad f(0) = 0 \quad f'(0) = 1 \quad f(x) > 0 \quad x > 0$$

これらの關係は全ての例に成り立つことであらう。

然し同様な地方又は同一の地方の部分間では同一の函數式が得られ異つた地方では同型の系數の異つた式が得られるものと考へられる。次に上掲の諸地方男女別の人數と名の數の關係表を掲げる。この表を圖にしたものが第一圖である。これに依つて見ると、男子の方では御野全體御野の各地方等を表はす點は一つの曲線を形造り、豊前の全部を表

はす點と豊前前の各地方を表はす點とは又一つのなだらかな曲線上にあり、御野の線と豊前の線の中間に筑前を表はす點がある。豊前の線は縦軸に近く御野の線は縦軸に遠い。女子の場合も同じ國が略々同一の曲線上にある事は同様であるが、只筑前を表はす點が御野と同一線上又は御野よりも反つて縦軸に遠いといふ事である。縦軸に遠い曲線上にあることは名が分化してゐる事を示す。名が分化してゐる事は一面社會の大きい事を示す表徴とも

表 一 第

國名	里名	男	子	女	子
		人数	名數	人数	名數
御野國	春部里	301	223	368	239
	栗栖田里	183	127	251	160
	肩々里	64	56	62	52
	中里	34	31	46	39
	三井田里	66	57	92	73
	半布里	550	330	552	296
	御野全部	1198	592	1371	594
筑前	川邊里	203	144	230	161
豊前	塔里	63	46	64	44
	加目久也里	34	31	44	36
	丁里	238	120	237	115
	豊前全部	335	168	337	147
氏族名					
縣主族	204	148	182	135	
國造族	143	130	138	107	
秦人	385	242	220	162	
奴	88	80	96	84	

考へられるが、他面文化の多様性複雑性をも表はすものと考へられる。その事はこれと同様の方法に依つて作られた次の第二表に依つて旁證せられるであらう。第二表は大日本古文書一及び二に依り山城、出雲等諸地方の名の表はれたものを集計したのであるが、二圖で見ると文化の進んでゐたと思はれる地方は一般的に縦軸に遠い曲線上にあり、文化的におくれてゐたと考へられる地方は縦軸に近い曲線上にある。次に氏族的に見ると秦人、縣主族、國造族、奴を表はす點に成る丈け近い曲線を作らうとすれば國造族を表はす點を離れてやゝ縦軸に近くなる様に思はれる。これに依つて國造族が他の氏族より名が分化して居たものである事が考へられる。

左の表は文化と名數との關係を明らかにする。

表 二 第

國名		男	子	女	子	年 代
		人數	名數	人數	名數	
御野	1198	592	1371	594	大寶二年	
筑前	203	144	230	161	同上	
豊前	335	168	337	147	同上	
下總	291	148	387	165	養老五年	
常陸	32	29	8	7		
陸奥	10	10	35	31		
讚岐	2	2	5	5		
因幡	29	27	24	16		
近江	27	24	41	36	神龜元年	
山背	195	181	246	206	神龜三年	
右京	75	69	117	89	天平十年	
山背	157	122	180	128	天平五年	
出雲	352	246	412	231		
山背	39	34	51	44	天平七年	
遠江	112	91	1	1	天平十二年	
越前	34	34	39	38	天平十二年	
備中	58	52	15	15	天平十一年	

第三節 名の數と共通名の數との關係

團體相互間にある共通の名の數は、團體相互間の文化的共通性を或る程度示すものと考へてよいであらう。第三表は御野春部里を基準にしたときその他の各地方の共通名數と名數との關係を表はすものである。それを圖に表はしたのが第三圖であるが、一圖によつて見るとき御野の諸地方を表はす點が略々同一曲線上にあり豊前が又同様に同一曲線上にあつて、御野の諸點を結ぶ曲線は豊前の曲線よりも縦軸に近い。兩者の中間に筑前がある。即ち此の事は御野

の春部里に對して御野の他の地方は略々同様な共通性を持つてゐる事を示し、三井田里が甚だしい特殊性を示すのは

表 三 第

國名	里名	名數	共通名數
御野	田々	127	42
	榎	56	18
	中	31	12
	三井田	57	12
筑前	半布	330	62
	前	142	32
豊前	塔	46	13
	加目久也	31	9
	丁	120	22

何か理由があるのかも知れないが、現在の所その理由を見出し得ない。又豊前の諸地方が御野の春部里に對して同様な共通性をもち、筑前は御野と豊前の中間にあることを示してゐる。此れは名の數と人數との關係に於て示されたのと略々同様の關係であつて、筑前の文化が御野と豊前の中間にある事を示すものと考へられる。

表 四 第
表名通共間族氏

氏族名	縣主族	國造族	秦人	奴
縣主族	148	24	56	20
國造族	24	130	29	8
秦人	56	29	242	25
奴	20	8	25	80

凡例 秦人ノ行、縣主族ノ列ニ56トアルノハ兩氏族ノ共通名數ガ56デア

ル事ヲ示シテキル

次に氏族團體相互間の共通性について見るに、先づ秦人を基準としたものでは縣主族を表はす點は、奴又は國造族

を表はす點を原點に結ぶ線の何れよりも縦軸から遠く、且つ何れよりも人數が多いから、秦人に對し縣主族は奴や國造族よりも共通性が多いといへよう。その他も同様に縣主族と秦人とが共通性多く、國造族と奴とは相互間にも共通性少く縣主族と秦人とに對しても共通性が少い事を示してゐる。

第四節 時代と名との關係

一序説にも述べた様に此の時代は推古朝から大化の改新を経てやがて奈良朝が始まらうとする時期であつて、文化の發展變化の多い時期であつたから名の上にもそれが表はれて居るものと考へられる。こゝでは御野と九州に於てどちらが早く新しい文化を取り入れたかといふ問題、現實にはどちらが早く新しい名を取り入れたかといふ問題を取り扱つた。二つの地方に共通の名がある場合、その名をもつ者の最高年齢を比べる事により新しい名を取り入れる早さを大體示し得るものと考へられる。だが最高年齢の比較では最早その名が行はれ始めたときの人が死んで居る場合、壽命の比較になつて新しい名を取り入れる早さの比較とはならない。然し兩地方全體としての新名を取り入れる早さの比較は共通名全部について平均する事により兩地方の年齢構成に大きな差異がない限り妨げなく行はれる。何故ならばmを流行初期の人が死んでゐる名の數、qを流行初期の人が生きてゐる名の兩地方最高年齢の差の平均とし、nを流行初期の人が生きて居る名の數とすれば、兩地方の年齢構成に差異がない場合に得られる實際の値は $\frac{qn}{p+q}$ となる。従つて兩地方流行受容の差を示す眞の値qと實際に得られる値とを比べて見ると實際に得られる値は眞の値よりも絶對値の少い同符號のものであらう。即ち計算により得られる値は眞の値と質的には變らないが量的に變るものであつて、計算に依りAの地方が三年早いといふ結果が出ればそれは三年以上早かつた事を示すのである。も一つの疑問は或る名が本來Bの地方に早く始つたのにその地方では初期の人が死んでAの地方の其の名の人より若い人だけが残つて居るといふ様な偶然が起るのではないかといふ事である。一つ一つの名についてはこの様な事の起る可能性、

は甚だ多いであらう。然し多數の名について平均する場合かかる事の起る可能性は他の事が同一ならばその逆の本來おそい名が早くなる可能性も同様である。そこでこの疑ひは他の事情が同一な場合には問題とならないであらう。九州地方と御野との男子平均年齢は此の場合二二・二と二二・〇であり大きな差異はない。共通名の最高年齢の差は—861+228であつて統計的に有意義な値とはならないが先に述べた理由により、差異が減少して表はれるといふ事が認められるとすれば大寶の戸籍帳に表はれた地方については男子の場合九州の方が御野國よりも流行受容に遅れる傾向があつたと見ても差支へないのではなからうか。然るに女子に於て見るときも、共通名最高年齢は九州の方が少くなつて居るのを見る。その差は六・六才であつて男子の場合よりも量的には少い。

第五節 名の分類

名を原辭（松田大三郎氏標準日本文法）に分けて、それに依つて意味に従ひ名を分類した。従つて一つの名が二つの原辭からなれば二個の部分に分類される。又假名書きで二つ又は三つの意味にとれるものも夫々の所に入れた。分類の順序は後世のものであるが大體伊呂波字類抄十卷本に従つた。

先づ地方的に如何なる差異が表はれて居るかといふに、著しい現象は十二支の名をもつものが九州に多いことである。御野には徳を表はす名が多く敷といふ名は御野に限られて居る。新文化を表示するものとして學問に關係した名を見てみると、先づ博士波加世儒と書いてある名で總てはかせとよまれるものがある。此の名は總て御野國に限られる。書文等の字を含んだ名があるが之は御野に五人あるのに對し九州には筑前に一人あるにすぎない。しかも御野の

は五十一才から十五才にわたつてゐるが、筑前のは七才である。徳の字を含んだ名で九州と御野に共通のものは徳麻呂、徳足（等許太利）徳瀬の三であるがその最高年齢の差は平均廿七才、標準偏差六・八才であつて御野の方がそれだけ早く徳といふ語を名に使ひ始めたと思られる。又孔子といふ名を持つて居るものは御野に三才の幼児があるだけである。次に佛教關係の名として法といふ字を冠させた名に法麻呂、法師等がある。共通に兩地方にあるのは此の二つであるが何れも御野の方が高年である。その他の二つの法を冠させた名は御野にだけある。その他に佛教に關聯あるものとしては阿彌多觀世があり之も御野にあるだけである。其他外來思想の影響あるものとしては十二支がある。之は九州では盛んに流行して居たもので豊前では男女總數七百十三人の申十二支關係の名をもつものは二百七十五人あり三十八パーセントを超える。御野國では流行は夫程ではなく流行の始まりは御野が早かつたらしく最高年齢を共通名で比べて見ると差の平均が十七・六才御野が多い。共通名の最低年齢を比べると平均十・一才だけ御野が多い。即ち御野では最流行期が既に過ぎて居たものである事を示す。次に原始的なものか大陸的な起源をもつものか瞭らかでないが排泄物等の名がある。その例を挙げると御野には由波利賣五十七才、筑前には久曾賣（之は屎の意ではないかも知れない。古事記によると屎のそは甲類の假名でなければならぬから）豊前には屎六才、小屎賣一才があるが何故この様な名を好んでつけたのか。決して上代日本人がこの様なものを好み美しいと見て居たとは考へられない。それは素尊の犯した天津罪の中に屎戸が數へられ月讀尊が殺された理由に依つても考へられる。又古事記に依ると神名に富登といふ名があるのを忌みて他の名で呼ぶといふ事があるのでも知られる。然し松村氏は日本童話集の解説に日本童話の特色の一としてこの様な言葉を好んで使ふといふ事を擧げて居られる。此の様な言葉を崇びはしない迄も

口に上す事を絶對的に忌んだのではなからう。大寶二年の戸籍帳には陰部の名らしいものは御野國の都比賣の他に
なかつたが、より古く否定出来ない實例としては、孝徳天皇白雉元年に作られたといはれる二天像に木古といふ
名がある事（古京遺文十頁）ある。當時この様な名が行はれた事を示す。朝鮮に於ては近い頃もこの様な名が呪術
的な意味を以て鬼神の禍を逃れる爲に行はれたといふからして上代日本人も同様の意味を以て名づけたのかも知れな
い。兎に角卑語を名とする事が新しいものならば御野が受容の早さに於て勝り原始的なものとすれば其れを捨て去る
事が早かつたのであらう。以上の實例に依つて見るに大陸の文化に對する關心又は受容が大寶二年の戸籍帳に残つて
居る所では、九州が御野に少くともその早さに於て劣つて居たと思へる。量的に見るとき九州は十二支の名に於ては
著しく多いが、質的に見た場合十二支の觀念より儒佛に關するものが勝れて居り新しいものとすれば御野が全般的に
見て大陸文化の受容に於て勝れて居た事が認められやう。

次に民族的差異について見るに統計的に見て國造族に特殊性があつた事は分類表にも表はれて居る様に一々の名に
ついても特殊性が見られる事が多い。例へば數をつけた名が多い事、國のついた名が多い事等であるが新文化に對し
特に受容がどうといふ事は見られない様である。國造族の特殊性は必ずしも地方的な特殊性に歸し得ない事は分類表
により見る事が出来る。

第六節 結論

以上述べて來た所に依つて先づ九州地方と御野地方とを戸籍帳に表はれた限りで考へて見ると、名の分化に於ても

男子では御野の方が勝つて居る。女子に於ては筑前が或は御野に勝つては居ないかと思はれるが、これは男子と女子の一般的特質から見るとき、女子の方が保守的であつて、女子の名にはより古い時代の又はより保守的な社會意識が表はれて居るものと考へられる。實際上に戸籍帳に表はれた所は女子の名が保守的である事を裏書きして居て、新文化を示す様な名は女子には無いのである。若し女子の名が古い時代を表はすものとすれば、筑前の此の地方が古くは御野の此の地方よりも分化が進んで居た事を筑前の名数の多い事が示すものといひ得やう。次に新しい名を取り入れる速さに於ても、御野は九州に勝つて居るやうである。此の場合には男子にも女子にも略々同様の結果が表れた。名を分類して考へて見た場合、新文化に關聯ある名の取り入れ方も矢張り御野の方が勝つて居る。又原始的かと思はれる卑語を捨てる事も亦御野が早い。以上の事からして御野の方が九州より文化的に勝れて居たといふ事が出来るであらうかといふに、先づ此の戸籍帳に表はれた地方が御野又は九州を代表し得るかが問題である。單に地勢的に見る場合には始めに述べた様に兩地方は略々同程度の位置にあると見てよいかも知れない。御野の方は東海道の路線に近く、豊前は宇佐の津に近い。筑前も亦太宰府に近い。然しその住民の階級別から見るときは御野は國造族、縣主族等を多數に含んで居るのに對し、九州地方には少數の肥君等がある他は勝姓をもつて居る者があるに過ぎない。此の點や、御野の方が勝れるものではなからうか。そこで兩者夫々の地方の代表と見る爲には幾らか御野の方を低めて考へねばならない事とならう。そこで此の兩地方の更に古い時代について考察して見るに、原史時代の文化状態は後藤守一氏日本考古學によると發見鏡の總數、縣面積に對する鏡數比、發見された鏡の徑の平均、一箇所に於ける發見鏡の平均數等總て福岡が岐阜に勝る。然るに鏡を仿製鏡と支那製鏡とに分つときは、支那製鏡の數は福岡が岐阜に勝るが、仿

製鏡の數は岐阜が福岡より多い。後藤氏が言はれる様に氏の用ひた資料を上代人の用ひた鏡の數の比例値とし鏡を當時の文化の具象の一であるとし、支那鏡が大陸文化を示し仿製鏡がより自生的な文化を示すものと假定すれば、鏡の傳來され、作られ、古墳に埋められて居た時代には、全般的には福岡地方が岐阜の地方よりも文化的に勝れて居たものと考へられるが、自生的な點では岐阜の方がより勝れて居たと考へられる。此他に漢委奴國王の金印が志賀島に見出された事、北九州地方一帯に裝飾棺の見出される事等も、九州地方の古代文化の様相を示すものと思はれる。次に延喜式の神名帳を見るに、その中に表はれた神社名は筑前豊前の方に於て大きいのが多い。此れは筑前豊前の方が政治的に勢力があつた事を示すものであらう。然も此の事は延喜式の時代よりも古い時代の事を示して居るものと考へられる。何故かといふに、宗教上の事柄は一般に保守的に取扱はれるからである。此の神名帳が奈良朝の出雲風土記の神名の部分と一致する事が是を實證する。そこで延喜式の神名帳の表はす政治的勢力分布は或は相當古く溯り得るものであらう。以上述べた種々の事由に依り九州北部が原史時代は御野地方より勝れた文化を持つて居たものといへるであらう。又太田亮氏の「日本古代に於ける社會組織の研究」によると、魏志倭人傳等の證する所によれば九州北部の人口は古代に多く、和名抄の里數から數へた平安朝の人口は甚しく減じてゐる事が見られる。人口の多少そのものは文化の高低を示さないであらうが、また人口が少くなる場合文化が低くなる事も多いであらう。さうとすれば此の事は又上に述べた事を證する。かくして原史時代には割合勝れた文化を持つて居た九州の此の地方も、戸籍帳の時代には相對的に御野地方に劣るか又は等しい程度になつたものと考へられる。之を一般的にいへば中央の文化と邊境の文化との性格の相違を示すものであらう。即ち邊境は高度文化の地と相接する場合その文化を受容れる事は中央に

比し早い、やがてその受容れ方の強度は逆轉して中央の方が多くを受容れる様になる。西洋文化の場合に於ては長崎が此の邊境の特徴を鮮かに示して居る。

第二に民族的な差異について考察して見よう。二節以下に述べた所により國造族は他の秦人、縣主族等に對して特殊性をもつて居た。同様に奴が特殊性を多くもつてゐた。之は奴が特殊な階級をなして居たことを暗示してゐる。國造族が特殊性をもつてゐた事は、或はその氏族の特殊性ではなくて、その地方の特殊性であつたかも知れないといふ疑ひが起る。國造族は大部分春部里であるが、春部里の中でも特殊性を持つて居る事は虫倭文等のついた名が春日部里の他の氏族には無くて、國造族に限られて居る事でもわかる。數をつけた名が多い事は著しい點である。此の事は氏族團體といふものが未だ必ずしも崩壞して居なかつた事を示すものではなからうか。それは、太田氏が前述の所で「氏族といふものは未だ社會に意味をもつて居て中古初期の社會階級の基礎をなしたものは氏族であつた」といつて居られる事を旁證するものであらう。

分類表

凡例

數字は其上段の辭を含む名を持つ人の數

△印は標準誤差の範圍を超えて多いもの又は其れに近いもの。

□印は標準誤差の範圍を超えて少ないもの又は其れに近いもの。

例へば日の行丁里の列に5△とあるのは日といふ辭を含んだ名が丁里に五人あることを示す。△は五人あるのは丁里の人數からして割合に多い事を示す。

十二支	水	金	土	火	木	十干	時	年	秋	朝	時	月	星	日	天象	里氏族名
17		1	1		1	3			1	2	2	1		1	2	春部里
15		1	1			2					1			3	3	栗栖田里
7										1	1			1	1	肩々里
5																中里
7	1				1	2										三井田里
67		4		1	4	9	1			1	2					半布里
43	2	2				4					2		1	2	3	川邊里
28		1				1										塔里
14																加目久里
111	1	4			1	6					2			5△	5△	丁里
314	4	13	2	1	7	27	1	4	1	4	10	1	1	12	14	計
28		1			2	3									0	縣主
3		1	1			2				1	1			1	1	國造
102	1	5			3	9	1	1		1	3			4	4	秦
20		1		1		2		1			1			1	1	奴
161	3	5	1		2	11		2	1	2	5	1	1	6	8	他

波	海	地象	旋風	雲	雷	氣象	亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子
	1	69		1		1	1	2	2			2	3	1			3	2
		30	1			1	2	3			4		3					3
		14						1			1	2	1	2				
		2						1				1	2	1				
		16	1	1		2		1					1				4	1
4		82	3	1	1	5	9	6	4	1	5	9	11	8		1	7	6
1		28				9△	1	8△			3	1	3	2		2	6	8
		8					1	1	1		3		2	4△	3△	4△	5△	4
1		5					1	3	3					1	1	1	2	2
	2	9					7	12△	6	1	14△	8△	5	8△	12△	10△	12△	16△
6	3	263	5	3	1	9	30	31	24	2	30	23	31	27	16	19	39	42
1	1	33					5	2	2	1	2	3	4	4			3	2
		32		1		1						2						1
2		36		1		1	7	9	5	1	12	10	6	9	7	9	13	14
		15	1			1	1	3	6△				2	4△		1	3	
3	2	14	3	1	1	5	17	17	11		16	8	19	10	9	9	19	26

土木建築	曾根	石	堤	田	森	林	野	道	山	坂	嶋	淀	溝	垂水	澤	江	瀬	川	
13		20△		3		2	1		16△	4	20△				1			1	
5		6		5				3	2	2	9						2	1	
3		3		1					2		5						1	2	
1								1			1								
2		1		3					1	2	5	1△					1	2	
29		12	1	6	2	1	2		12		32△						2	8	
10				5			3		2	3	7						4△	3	
2		6							1									1	
		1									1		1△				1△		
1	1	1									2			1			2△		
66	1	50	1	23	2	3	6	4	36	11	82	1	1	1	1	3	11	17	
12		4		3			1		6		13						1	3	
7		10△		1			1		4	2	11							3	
16		6	1	1	2	1			4		11					2	1	5	
2	1△	7△				1			2		3							1	
29		23		18		1	4	4	20	9	44	1	1	1	1	1	1	8	6

佐 草	櫻	薦	桑	瓜	檳 榔	植 物	床	垣	園	庭	倉	宮	殿	庵	家	井	舟	橋
			1			9				1	3	2	1		3			3
1						2				2	1	1			1			
						2				1				1△		1		
						1						1						
					2△	1	1			1								
	1	1	1			15			1	7	5	2			7	2	2	3
						1	3△				1				2	3		1
										2								
		1		1		3						1						
1	1	2	2	1	2	34	3	1	1	14	10	7	1	1	13	6	2	7
						1	5			6△	1	1			3			1
			1			5				2	2		1△		1			1
	1	1	1	1	1	11			1	1	4	2			4	2	1	1
														1△		1		
1		1				13	3	1		5	3	4			5	3	1	4

大寶二年戸籍帳に就いて

鷹	雁	熊	動物	楮	穂	梗	稻	粟	穀物	麻	實	枝	種	楮	梨	虎枝	栲	椎
2	1	2	18			1	3	2	6	2			1			1	2	
2	1		7			1	7 Δ		8			2						
			1			1	1		2	1		1					1	
			1														1 Δ	
			2															
		1	15	1		2	12	4	19	1		1		3 Δ			4 Δ	
			2		2 Δ				2			2			1			
		1	2				1		1									
			1			1			1									
			2	4 Δ		1	1		6		1							
4	2	4	51	5	2	7	25	6	45	4	1	6	1	3	1	1	4	4
			5			1	4	2	7			1						3 Δ
		1	10				2		2	1			1 Δ				2 Δ	
		2	11	4 Δ			5	2	11	1	1			3 Δ				1
			2			3 Δ	1		4									
4	2	1	23	1	2	3	13	2	21	2		5			1	1	2	

友	主	男	人	子	人 倫	貝	鰐	鮎	鯛	鮪 シ ヒ	鮫	鯛 コ シ ロ	鯨	海 豚	虫	尾	羽	角
5	1	1	9	9	95	3						1	1	4		1	3	
3			6	8	69	1		2						1				
2	1		1	2	22									1				
			2	4	19												1	
			4	1	25													
5		3	29 Δ	25	200	1	1	3	1	1								
	1	11 Δ	3	4	89					1		1						
		2		3	22									1				
				1	15											1 Δ		
		5	4	1	86					1		1						
15	3		58	58	642	5	1	3	3	2	1	1	2	1	12	1	2	7
1			8	11	72	1									2			2
1	2	1	7	4	41	3 Δ					1		1 Δ	4 Δ				
2		4	16	10	130		1	2	1	1		1		3				
2		2	1	2	33												2 Δ	
9	1	15	26	31	366	1		1	2	2			1	3	1			5

面	旋毛	背毛	口	尿	人體	若	老	大人	老幼關係	甥	伯	祖父	弟	兄	親緣關係	諸	麻呂
					4		2	1	3	2	2	1	4	1	10	2	68
	1	2	1		6		3△	1	4	2	2		6		10△		52
1△					3							1△	2		3		16
													2	1	3	1	12
	1	2△			3		1	2	3								20
		2			29	3		5	8		1		8	1	10	2	136
	3	2		1	17	1			1				1		1		70
					8								1		1		17
					4						1				1		14
				1	43		1		1	1			4	4	9	1	75
1	5	8	1	1	117	4	7	9	20	5	6	2	28	7	48	6	480
					9	3△		2	5				4		4	1	51
1△					3					1	1	1	1	1	5		26
					35			2	2	1	1		1	2	5	1	97
	1			1△	9		1		1			1	2	4	7	1	25
	4	8	1	1	61	1	6	5	12	3	4		20		27	3	281

樽	碗	蓋	籠	食器	針	鉈	繩	栲	網	職具	藥	鹽	酒	粥	飯	飲食	目	手
		1	1	2			1	2		3		5 Δ			1	6	1	3
	1			1	1					1		1	2			3	1	1
								1		1						0	1	1
								1		1						0		
										0	1					1		
2				2		1			1	2	2		1		1	4	5	22
										0			2	1		3		11
					1					1						0		8
										0						0		4
										0			1			1	1	41
2	1	1	1	5	2	1	1	4	1	9	3	6	6	1	2	18	9	91
2 Δ				2						0	1					1		9
							1 Δ	2 Δ		3		2				2		2
									1	1	1		1		1	3	4	31 Δ
				1 Δ	1					0		1	1			2	1	6
	1	1		2	2	1		2		5	1	3	4	1	1	10	4	43

鉦	劍	大刀	刀	武器	文	倭文	衣	衣服	鏡	王	裝飾品	臺	蓑	禪 <small>タスキ</small>	櫛	冠	足結	身裝具
1	2			6		2		2					1			1		2
				0				1						2				2
				0	1			0						1				1
				0				0						1				1
		1Δ		2			1	1										0
	1			4			2	2		5Δ	5	1	2	1	1		1	6
		1	2Δ	5		1	1	1		1		3					1	4
				1				0										0
	1Δ			2				0										0
				1			1	1						1				1
1	4	2	2	21	1	3	4	8	1	5	6	1	6	6	1	1	2	17
				0								1		1	1			3
				3		2Δ		2										0
				5			3	3		3	3			1				1
	1			2									2Δ					2
1	3	2	2	11	1	1	1	1	1	2	3		4	4		1	2	11

細	礙	堅	嬉	大	嚴	荒	惡	形容詞	操	物	力	事	僻	形見	軍	雜事	甲	弓
		1		18		7		87	1	2△		1	1			5	1	2
	1			15		1		60				1		3△		4		
				6		2		22								0		
								9								0		
				5	1	1		25								0		1
	2	3		30		11		157			3	3			1	7	1	2
1	2		1	13		2		43						1		1	1	1
				1		2		13								0		1
				1				7								0		1
		1		2			1△	31							1	1		1
1	6	5	1	91	1	26	1	454	1	2	3	5	1	4	2	18	3	9
	1			14		3		69			2	2				4		
				10		1		44	1△	2△		1				4	1	2
	1	4△		11		6	1	73			1	1				2	1	4
				3		1		17								0		1
1	4	1	1	53	1	15		250				1	1	4	2	8	1	2

安 貴 御 稀 當 眞 古 廣 平 久 速 柔 无 長 豊 建 高 逆 汗

27△			1	11		6		1	1				5		2	1	
19△	1		1	2	1	9		1	1		1	1	1			1	
4		1△		1		3									1	1	
6△	1					1											
2	5△			1		7							1	2			
36	7		5	6		15	1		6	1			3	2	1	5	1
10				1		12	1						1	1	3△	2	
2						4	1									1	1
		1				1							1	1			
00	1	1		4		7	1						6△	2	1		

97 1 16 1 7 26 1 65 4 2 8 1 1 13 14 6 11 3 1

18	5		1	3		6			2	1			2	1		1	1	
12			1	6△		4		1						2		1		
90	3		2	3		10	2		2				4	1	2	5		
1		1△		3		3			1						1		2△	
57	1	8		3	10	1	42	2	1	3			1	7	10	3	4	1

										色				德善弱吉			
十	九	八	七	六	四	三	二	一	數	紫	白	黑	赤	德	善	弱	吉
1						3	1	24			4	4	5	1			
						2		12			4	4	2			2	
				1				5					2			1	
								1								1 Δ	
	1							1		1	1	2				1	
	5 Δ	1	1	1	8	1		34	1	10	10	21	8	2	1	10	
								1	7	6	6	12				2	
								0						1			
								2						1			
								3	2	7	6	15	3			1	
1	6	1	1	2	13	1	2	39	1	2	32	23	58	22	3	2	17
		1	1		1	3		15	1		4	4	9	3	2 Δ		5
1 Δ				1	2		1	21			1		1	4	1		1
	3		1		3	1		17	2 Δ	8	8	18	4				3
								0			1	1	1				
	2				5	1	36			19	10	29	10		2	8	

余	動詞	北南	邊	外	角	前	際	内	相	位置 方角	万	八千	千	五百	百	八十	五十	三十
1	48				2	5 Δ				8	1	5	7	4	1	1		
	37									0	1	1	4	3		1		
	11									0		3	1					
	9				2 Δ	1	1 Δ			0				1				
	4									4								
2	96	1		1	1	2	1	2	1	9	2	1	4	9				1
1	33		1							2	1		3	1				
	2									0								
	3	1 Δ								1				1				
1	22			1						1				2				
5	265	2	1	2	5	8	2	4	1	25	4	2	12	19	21	1	2	1
	29					2	2	1		3	2		1	6				
	20					3 Δ		1		4	1	1	4 Δ	6 Δ	3	1 Δ		
3	56				1		1	1	1	4			1	3	3			1
	15									0								
2	145	2	1	2	4	3	1	1		14			7	9	9			2

置 持 取 積 包 突 來 度 成 追 生 醉 養 食 飢 滿 益 足 在

					1	1		1		1		2			3	21Δ	2	
		1		1					1			3		1	1	13Δ	1	
																7Δ		
										1Δ						3	1	
																	1	
		1	2	1				3	1				7		3	22	1	
1	1	1	1			2Δ	1				1	1				4	1	
		1												3Δ	1	4	1	
1	1	3	4	1	2	3	1	5	3	1	1	1	12	3	1	9	75	8
													1			2	9	
						1							1			4Δ	7	1
		1	2	1				4Δ					4	3Δ	1	11	1	
		1			1	1	1Δ					1Δ					5	
1	1	1	2		1	1		1	3	1	1		6		1	2	43	6

大寶二年戸籍帳に就いて

賣	買	知	忍	厭	背 <small>ア チ カリ</small>	默	哭	勝	優	依	委	亂	陸	遊	勾	卷	結	解
	3	1	2		1	1				3								2
	1	5	2					2△		4								
				1							1△	1						
			1							1		1△						
	1	13	10					1	5△	11		2	1			1	3	1
		3	6	2△			1							1	1			
														1△				
			1							2								
1			4							2								3
1	5	24	25	2	1	1	1	3	5	24	1	4	1	2	1	4	5	1
	1	5	2							2	3		2					2
	3△				1△					1								
1		5	6							3	5		1			1	1	1
			1				1△					1△	1					
	1	14	16	2		1		3		15		1		2	1	3	2	

神	神道	寺	法師	布施	无量壽	功得	法	觀世	阿彌多	孔子	儒佛	繪	書	博士	學	牧	敷	借
				1	1		2		1	1	6	1	2	3			2Δ	
			1			1					2		3	1				1
1Δ	2Δ							1Δ			1							1Δ
			1Δ								1			1		1		
	2	3									3	1		2		4		
2Δ	2												1			4Δ		
							1				1	1				1		
			1															
3	6	3	3	1	1	1	3	1	1	1	15	3	6	7		10	2	2
			1								1							
1	1			1Δ		1Δ					2	1	1	1			1	
	2	1									1	1		2		2		
1	1							1Δ			1					1		
1	2	1	3		1		3		1	1	10	1	5	4		7	1	2

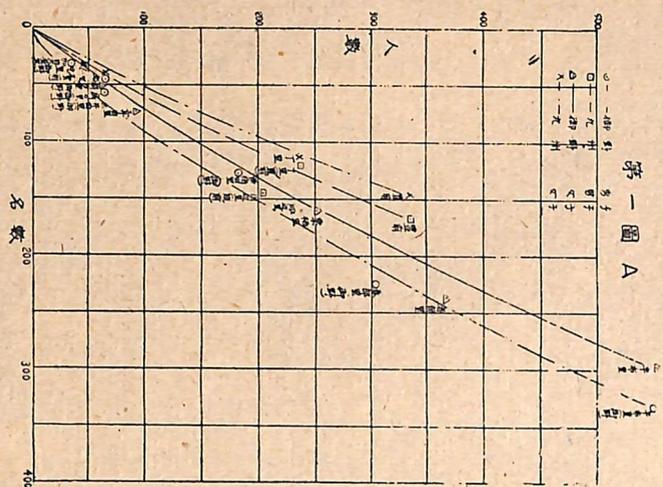
大寶二年戶籍帳に就いて

高麗	唐	漢	外國名	若狹	倭	山代	御野	出雲	東	地名	境	都	村	縣	國	國郡	罪	占
1	3		4										8		25	33		
	3	1	4						1	1			4	1	5	10		
			0												2	2		1△
			0													0		
	1		1						1	1	1△				3	4		
	3		3	1		1	1	1	1	5		1	7		60	14	2	
			0										1		6	7		
2△	1		3												1	1		
			0													0		
1	3		5		1					1					6	6		
4	14	1	20	1	1	1	1	1	3	8	1	1	20	1	54	77	2	1
			0	1			1			2		1	4		3	5		
1	3		4							0			5		17△	22		
3△	2		5					1	1	2			2		5	7	2	
			0							0			1			1		
	9	1	11		1	1			2	4	1		8	1	29	39		1

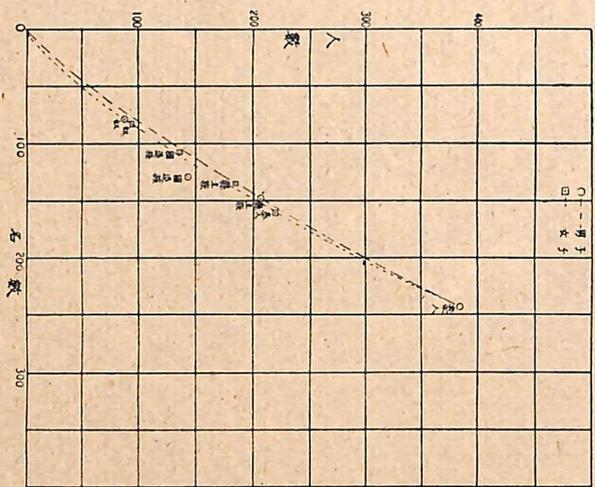
助 辭	荷	貢	市	經 濟	繪 師	商 人	網 方	職 業	別	連	眞 人	彥	舍 人	君	臣	首	官 姓	吳
22		1		1	1			1			2		1	2	1	1	7	
9																	0	
3									1△							1	2	
3																	0	
6									2△				1			2	5	
37	1			1		1	1	2			2		1			2	7	
4			1	1										1		3	4	
2														1			1	
1									1								0	
4										1	1	1			1	2	6	1
91	1	1	1	3	1	1	1	3	3	2	5	1	3	4	2	11	30	1
16				0				0			1					1	2	
10	1△			1	1△			1	1	1							2	
14				0			1	1			1	1	1			2	5	
0				0				0								1	1	
51		1	1	2		1		1	3		2		2	4	2	7	20	1

阿	方	代	都	志	多	奈	閑	倍	間	祁
		4△			2	3	1	10△		
	3		1		1	2		2		
						1		2		
							1	1△		
		2		3△				1		
4	4	1	10△	2	4	1	7	4		
					1			1		
					1					1△
							1			
			1			1				1
4	9	6	14	3	11	8	12	19	4	1
			4	2△	2	1	5	2		
	2	3△				1	1	3		
2	2	1	4	1	1					1
2	5	2	6	1	8	6	3	14	4	

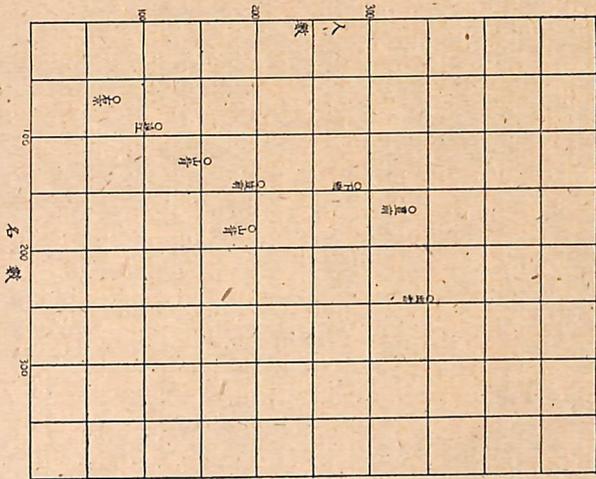
第一圖 A



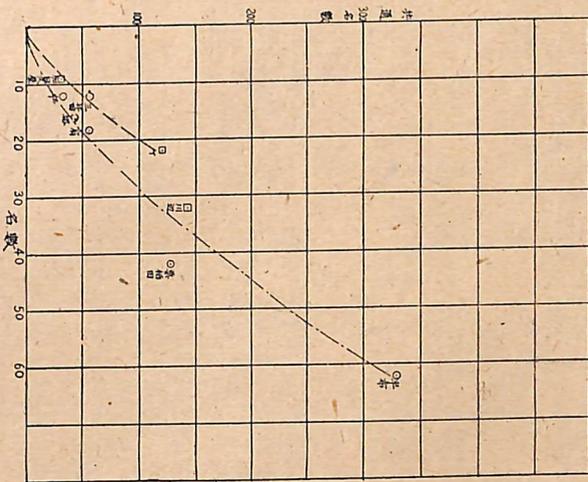
第一圖 B



第二圖



第三圖



第四圖 氏族間名數表

